



大久保小だより



平成 30 年 5 月 1 日 第 2 号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関 2 1

0 4 8 (8 5 4) 7 6 3 6

男子 148 名 女子 119 名 計 267 名

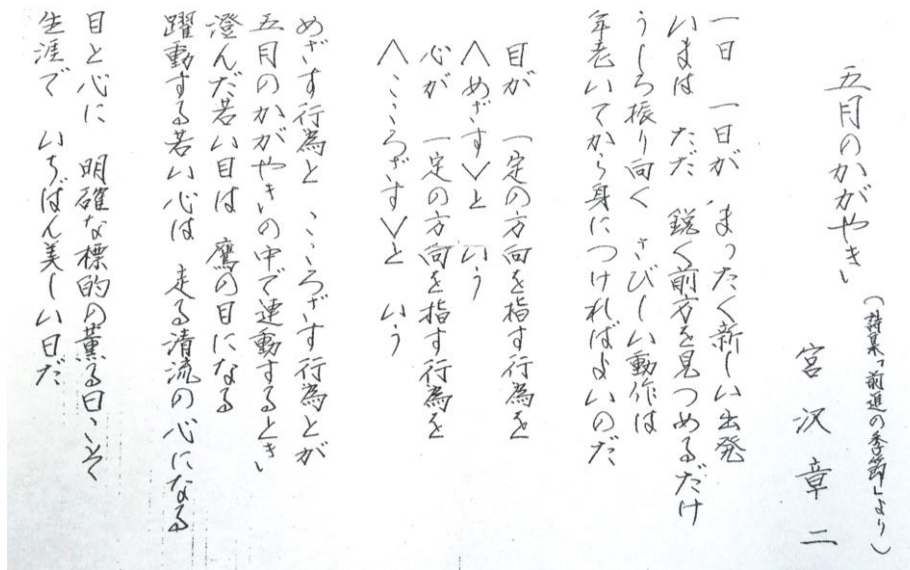
学校教育目標 **カいっぱい かしく やさしく たくましく**
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

五月のかがやき

校長 金子 要一

平成 30 年度が始まって一か月が経ちました。グラウンドでは大きな掛け声が、校内からは、元気な校歌が聞こえてきます。大久保小学校の本来の姿になりつつあります。

さて、校長室前に「五月のかがやき」という、作者直筆の詩が掲示してあります。詩の内容はもちろん、とても達筆でもありますので掲載します。



作者は宮沢章二という詩人です。宮沢さんの作品の中で有名なものが、東日本大震災直後にテレビやラジオで頻繁に流れていた「行為の意味」という詩でしょう。「〈こころ〉はだれにも見えないけれど〈こころづかい〉は見える 〈思い〉は見えないけれど〈思いやり〉はだれにでも見える」というものです。詩の名前、作者の名前は知らなくても、このコーナーはご存知でしょう。

宮沢さんは、埼玉県出身の詩人で、さいたま市になる前の大宮市に住み、教育委員長も務めました。そして、多くの詩やさいたま市内をはじめとした約 300 校の校歌などを残しました。また、クリスマスソング「ジングルベル」を訳した人でもあります。

さて、校長室前の「五月のかがやき」には、「行為の意味」での、「こころ」と「こころづかい」、「思い」と「思いやり」を連想させる「目」と「めがす」、「心」と「こころがす」という、印象的な対句的表現が出てきます。

「目」と「心」が、それぞれ「一定の方向を指す行為」が「めがす」と「こころがす」になるということです。そしてそれらが五月のかがやきの中で連動すると「若い目」は鋭い「鷹の目」に、「若い心」は清く流れる「清流の心」になるのです。

本校の子どもたちも五月になったとは言え、まだまだ「一日 一日が まったく新しい出発」であることに変わりはありません。年度のスタートにあたり、自分の「目指す」こと、「志す」ことをしっかりと、そして真っ直ぐ見つめ、それに向かって進んで行く気持ちをもってほしいものです。

さて、これからまだ連休は続きます。保護者の皆様には、ぜひ、ご家族で過ごす時間を作っていただき、子どもたちに慣れない環境で過ごした一か月のリフレッシュと、たくさんの思い出づくりをしていただけたら幸いです。